

平成 29 年度座談会「町長と語ろうまちづくり」(高齢者いきいきセンター)

開催日時	平成 29 年 10 月 18 日 (水) 午後 7 時から午後 9 時	天気 曇り
場所	高齢者いきいきセンター	
町民参加者	男 23 人 女 2 人 (40 代以下 0 人、50 代 0 人、60 代以上 25 人)	
町出席者	町長、教育長、参事兼企画政策課長、総務防災課長、保険健康課長、環境課長、定住対策課長、学校教育課長、事務局 2 人	

出席者から出された主な意見や提案

《テーマ：災害時の避難場所における諸問題 ー備蓄品、災害弱者対策、自治会の対応などー》

○高齢者いきいきセンターには食べ物等の備蓄が無いが、避難した際に食べ物等はどのように対応するのか。また、自治会としては災害時にどのようなことをやらなければならないのか。

○近隣の町では、地域集会所などを地域の避難場所として指定しており、避難可能な人数をネット上で記載している。山北町は広域避難場所が 7 か所であり、開成町は 19 か所、大井町・松田町は避難場所が 30 か所ほどある。少子高齢化が進んでいる中、避難場所である川村小学校まで行くことができるのか疑問である。自治会が持っている集会所などの位置づけを行い、風水害の場合にはこの場所、地震の場合にはこの場所へ避難を行うというプランニングをしてはどうか。また、地域でもっている集会所等の耐震診断を町で行い、避難所として有効利用できるようにしてもらいたい。

○防災訓練は震度 5 強を想定しているが、震度 5 強ではほとんど被害は起きない。他の町の防災訓練や防災計画では、震度 6 弱や 6 強で位置づけを行っている。これからは緊張感を持って、震度 6 弱などでプランニングをしてはどうか。

○峰ノ沢の関係で NHK のテロップに山北町が頻繁に出ていた際に、知人から安否を心配する連絡があったが、防災無線では特に放送が無かった。

○震災が起きた際に公共交通機関等は止まると思うが、1 時間以内に何人集まる想定なのか。また、3 日間経つと食糧が不足するため各地域に向かう必要があり、その際には若い職員の人手が必要になると思うが、そのようなシミュレーションは行っているのか。

○誰が来られるか等の具体的なシミュレーションを行う必要がある。実際に災害が起きた場合は、想定どおりにはいかない場合があるため、いざという時にすぐ対応できるようなシステムを考えておく必要があるのではないか。

○危険分散のためには、いろいろな場所に数多く備蓄を行ったほうがいい。

○原耕地の自治会には、食糧の備蓄品をまったく置いていない。災害時には一時避難場所の集会所等から広域避難場所へ移動することになるが、移動することは出来ないと思っている。食糧を持って一時避難場所へ来ることも困難であり、集会所等に食糧の備蓄が無いため、一時避難場所に避難しても、その後のストーリーがまったく想像できない。

○平塚市では、必ず市の職員が地域の責任者をしていて、災害が起きた際にどのように対応するのか地域の責任者である市の職員を交えて話し合いを行う。また、地域に住んでいる職員がすぐに小学校や中学校に行って対応できるように、市の職員は、小学校や中学校のマスターキーを持っている。町に住んでいる職員が少なくなっているとは思いますが、そのような組織が必要ではないか。

○町は、足柄上地区や県内の市町村と災害時における職員の対応について共通理解が出来ており、災害が起きた際にどの市町村の職員も出勤できない場合は在中している市町村の援助に関わるといった共通理解がされていると思う。学校の先生方についても、自分が在籍している学校が第一だが、在中している地域が震災にあったときは、まずは家族や近所の状況を見て、それで出勤ができるようであれば対応をするといった確認が出来ているのではないかと思う。町の職員のそのような姿勢が町民の方には見えてこないため、そのことについて話しを行ってはどうか。

○4、5年前に要援護者の支援者の制度が出来た際に、町から自治会を通して依頼があったと思うが、要援護者と支援者の年ごとの確認が出来ていないのではないか。

○要援護者については、変更があった場合には自治会長からその都度報告を行っているが、支援者については、4、5年間経っても一度も町から確認の連絡が無かったと思う。

《テーマ：これからの時代の山北町を考える -若者が地域に興味をもち、定着させるためにはどのような町づくりをすればよいのか-》

○3年前の日本創生会議で2040年ごろには山北町と松田町が消滅するとの報告書が出た。実際に山北町の人口は着実に減っている。小さい町は小さい町なりに努力を行い、若者が流出しないような条件を整えていくことが必要であると思う。子供たちが自然以外にも魅力があり、住み続けたい町だと思えるような何かしらの対策を行わないと人口が1万人を割ってしまうのではないかと思う。住み良い町ではあるが、若い人たちにとって魅力ある町にどのように作り上げていくのが大きな課題だと考えている。

○学校では施設等に行ってみ学を行い、体験教室を行っていると言っているが、その延長で町にある会社の見学を行い、実際自分の住んでいる町にどんな会社があるのかを理解すれば、興味に繋がると思う。

○広報で有料広告を行っていると思うが、これを無料にすることや、町にある会社を順次紹介する欄を作り、会社の概要などを掲載して、町民に対して町にある会社を知ってもらうと同時に会社が町民に対してアピールできるような場面を設けてはどうか。

○どこにも負けないような町の特徴を強調してアピールすることが必要ではないかと思う。ネットで調べると町のことがいろいろ書いてあるが、足柄上郡の中で山北町が一番優れている特徴を出すなどしてアピールする必要があると思う。

○5年程前に三保の小学生が百万遍念仏を見学したいと保護者から学校へ連絡した際に、土曜日のため教育の一環としては許可できないとの話があり、子供会の親たちで責任を持って対応することで見学や体験を行ったことがある。行政として柔軟な対応をしてもらえれば、声がかけ易いのでお願いしたい。

《テーマ：町政全般》

○15日に町内の統一美化クリーンキャンペーンがあり、雨が降っていたが荒天で無い限りは実施するというので、急遽組長へ連絡や掲示を行ったが、なかなか徹底できなかった。例えば、雨が続くようなときには、前日や当日に実施の有無について防災無線で放送をしてもらえないか。また、中学生が町内の美化の際にも参加をってもらう呼びかけを学校から行ってほしい。

○30年度予算で宿の消火栓5か所の設置について申請を行っている。岸は6地区に分かれており、他の地区の消火栓の数を調べたところ、大体10世帯に1つは消火栓があるが、宿地区は164世帯で消火栓が7つしかない。ホースを12本増設して、消火栓を5つ新設しないといざという時に消火が出来ない。岩流瀬用水があり、昔は川から水を吸い上げて消火していたため、そのままずっと今まで来たのではないかと思う。いざという時は自分たちで消火を行わなければならないため、30年度と31年度の2年間でなんとか5か所新設をお願いしたい。

○湯坂の待避所について、2か所出来た当初は幅について不満があったが、出来てから3か月経ってから評判が良く、待避所が出来て助かっているという話を聞くようになった。湯坂の人たちは朝から晩まで日々悩みながら通っており、今回の待避所で少し解決したと思っている。予算が無くて出来ないとの話を良く聞かすが、このことを大事にし、こういったことが出来るということを再認識すべきだと思う。湯坂には、農道で大きな地震がきたら落ちてしまうようなところや昭和6年や12年に浅間山の上の方で起きた地すべりが、人が入らなくなり荒れ果てたことにより再度起こる危険があるため、作ってほしい待避所が2か所ある。また、そのような問題がまだあるため、町の行政として目配りをして地域の人たちと一緒に対応を行ってほしい。

○有害鳥獣の被害は段々悪化しており、箱根山系の人たちは丹沢山の失敗を繰り返さないために、追上げが失敗した場合には群れで駆除するという強い意思表示をしている。また、丹沢山の関係ではシカやイノシシの被害が毎回ひどくなり、とれたて山ちゃんへのみかんの出荷が減ってい

る。山北町はシカやイノシシの捕獲頭数がトップであり力を入れて行っていると思うが、県の対応が甘いのではないかと考えている。ぜひ県へのアプローチを山北町だけでなく連携して行って、捕獲に対する考え方を強く言ってもらいたい。